

平成28年度

事業報告

自 平成28年4月 1日
至 平成29年3月31日

平成28年度 事業報告

1. 会員の加入及び退会

	期首	加入	退会	期末
会員数	47	0	2	45

加入商社：なし

退会商社：ウライ(株)、成田(株)

2. 会務

■第68期通常総会

平成28年 5月26日	ホテルグランヴィア京都	<ol style="list-style-type: none"> 平成27年度事業報告承認の件 平成27年度決算報告承認の件 平成28年度事業計画(案)承認の件 平成28年度収支予算(案)承認の件 その他
----------------	-------------	---

■理事会

平成28年 4月19日	書面決議	<ol style="list-style-type: none"> 平成27年度事業報告並びに収支決算報告の件 その他
----------------	------	--

8月30日	書面決議	<ol style="list-style-type: none"> KPA 京都プリント振興協会主催『メイキング・ワークショップ2017』に対する当協会の共催名義使用許可並びに助成金(50万円)の交付承認について ①(株)岩田『慶匠会の取組み』に関する助成金(22万円)の交付承認について ②近江屋(株)『三軸組織海外テストマーケティング事業』に関する助成金(32.3万円)の交付承認について ③外与(株)『「ロンシャンオールドコレクション」データベース化』に関する助成金(100万)の交付承認について その他
-------	------	---

平成29年 3月21日	京染会館 5階会議室1	<ol style="list-style-type: none"> 平成29年度事業計画(案)の件 平成29年度収支予算(案)の件 代表・業務執行理事の職務執行報告 新規入会承認の件 定款変更の件 役員規定変更の件 第69期通常総会の件 役員改選の件 その他
----------------	----------------	---

3. 実施事業

■公益事業

(1) 染織文化資源の保全と啓発事業

当協会が基本財産に位置付ける「染織祭衣装」と「全国染織産地合同制作布地」を保全するとともに、これら所蔵資料にみる染織技術の公開や資料そのものの一般公開により一般社会に伝える知識普及啓発を目的とし、下記事業に取り組んだ。

* 「染織祭」の詳細調査並びに公開

衣装制作の背景となった染織祭について北野裕子氏（龍谷大学社会科学研究所客員研究員）に調査を依頼し、今年度は染織祭衣装制作に関わった有職故実等の専門家（特に資料が多く残っている吉川観方を中心に）の資料から当時の衣装制作背景を調査した。また昭和 12 年の染織祭にあわせて大蔵省専売局が販売した記念たばこ「光」の販売経緯をたばこと塩の博物館にヒアリングし、当時の染織祭が京都を代表する祭りであったことを再確認した。これら調査結果を交えて去る 9/24（土）北野氏の講演により「昭和初期の京都と染織業界～染織祭（昭和 6 年創設）を手掛かりに～」（西川創業 450 周年記念特別歴史講座）にて一般の方に伝えるとともに、当協会ウェブサイト並びにインターネット上で展開するフリー百科事典『Wikipedia』に追加掲載して一般社会に啓発した。（継続事業）

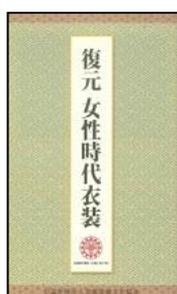
* 染織祭関係史料のデジタル保存と保全

染織祭の記録や軌跡を保全するために、当協会が保管する染織祭関係史料をデジタル保存するとともに、劣化を防ぐ目的で中性紙箱を用いての保管に移行した。（継続事業）
＜今年度作業＞

- ・会計関係史料「染織講社収支予算決算綴」（昭和 6～21 年）ほか 18 冊
- ・「京都織物卸商協会総会議事録」（昭和 22～26 年）
- ・「京都織物卸商協会議会議録綴」（昭和 26～28 年）
- ・「日本絹人絹織物配給統制(株)京都支店親展文書綴編冊」（昭和 19 年）

* 「染織祭」パンフレットの配布

染織祭調査の成果として染織祭の軌跡ならびに染織祭衣装の詳細をまとめたパンフレットを染織祭調査依頼先に配布して染織祭並びに染織祭衣装の啓発を行った。



* 染織技術アーカイブの作成並びに公開

所蔵資料に使われた染織技術の記録と解説を行い、その内容を当協会ウェブサイト上で染織技術アーカイブとして纏めて公開する目的で、染織祭衣装は北川満哉氏（学芸員）、全国染織産地合同制作布地は福井健二氏（染織専門家）に調査、解説を依頼し、今年度は次の通り公開した。

（新規公開内容）

「染織衣装」／奈良時代衣装 19 領

公開技術 「織る」……紵、錦織、紋羅

「染める」……纈纈、蔦纈、夾纈

「全国染織産地合同制作布地」／1999 年春・夏物向布地 7 点

公開技術 「織る」……ドビー

「装飾」……刺繍



* 染織祭衣装の補修・修繕

当協会が設定している「傷みの5段階評価」に基づき、今年度は次の通り補修を行った。（継続事業）

<対象衣装>

鎌倉時代1号「小袖」

〃 2号「桂」「小袖」

〃 4号「桂」

〃 8号「被衣」

〃 9号「桂」

〃 12号「小袖」

<依頼先>

松下装束店（京都市中京区）

* 染織祭衣装に関する展覧会

今年度展覧会は実施しなかった。

*所蔵資料貸付協力

(染織祭衣装)

◎衣装貸付協力

今年度貸付協力は無かった。

◎画像提供協力

日本の染織文化啓発のため、下記の通り画像の提供協力を行った。

貸付先 「所さんのニッポンの出番」(TBS 系列・5/24 放映)

使用目的 室町時代にあらわれた辻が花染の紹介として使用。

使用画像 室町・江戸時代衣装 6 点

(2) 染織技術等継承事業

日本の染織技術を次代に継承していくために、染織に馴染みの薄い人たちにあらゆる方法でもって伝えることで認知と理解を深め、将来携わる人々を増やす目的で次の事業に取り組んだ。

*子ども向け染織技術啓発冊子の配布

きものをより身近な衣料として受け止めてもらおうと共に、きものには様々な技術が使われていることをわかりやすく伝え染織技術の一端を知ってもらうことを目的に小冊子を制作し、子どもが初めてきものを着るシーンである十三まいり、七五三詣りに於いて次の通り配布した。

<配布先>

◎十三まいり 日 時 4月2日(土)

配布場所 ご清遊の宿らんざん(嵐山)

配布先 京都織物卸商業組合並びに京都新聞主催の十三まいり参詣者 182 名に配布

◎七五三詣り 日 時 11月12日(土)

配布場所 平安神宮

配布先 京都織物卸商業組合並びに京都新聞主催の七五三詣り参詣者 248 名に配布



* 染織文化セミナーの開催

◎「布のちから ―江戸から現代へ―」

- 日 時 11月11日(金) 14:00~16:00
会 場 京都ホテルオークラ 4階 暁雲の間
講 師 田中 優子 氏 (法政大学総長)
内 容 今年度より新シリーズ「日本のファッション文化―衣服と装飾の発展―」をメインテーマに開催。第1回目は人類がもってきた布の役割を再認識する「布のちから」について語り染織文化の啓発をはかった。
- 受講料 無 料
広 報 (会員・関係団体・美術館等) 当協会より案内送付
(一般) 10/24 京都新聞夕刊に広告掲載
当協会ホームページ、フェイスブックで告知。
- 受講者数 当協会会員、関係団体、美術館、一般 105名

◎「江戸時代の意匠と流行―遊びから生まれる意匠・別注品がモードを作る―」

- 日 時 平成29年3月21日(火) 14:00~16:00
会 場 京染会館 6階 大会議室
講 師 大久保 尚子 氏 (宮城学院女子大学教授)
内 容 既成概念に捉われない自由な発想で意匠を生み出した江戸時代の意匠と流行を通して現代のファッションを考え、染織文化の啓発をはかった。
- 受講料 無 料
広 報 (会員・関係団体・美術館等) 当協会より案内送付
(一般) 3/7 京都新聞夕刊に広告掲載
- 受講者数 当協会会員、関係団体、美術館、一般 52名

* インターネットミニ染織講座の開催

当協会ウェブサイト内において、きものの歴史シリーズ③「平安時代」動画を制作し、インターネット動画共有サービス『YouTube』にアップロードし相互リンクして当協会ウェブサイトの閲覧を促した。

◎きものの歴史シリーズ③「平安時代」

更 新 日 10月3日



(3) 染織技術等継承に関わる助成事業

染織技術を継承し一般社会に啓発していくことを目的とし、当協会助成規定に基づき次の事業への助成を行った。

◎KPA 京都プリント振興協会主催「メイキング・ワークショップ 2017」への共催

会 期 10月28日(金)～30日(日) 10:00～18:00※最終日 17:00
会 場 京都府京都文化博物館別館(中京区三条高倉)
制作テーマ うつつす／自然を写す、心をうつす、時を映す
出展者 16社 25組
内 容 染色業に携わる職人の創造力、技術力の向上を図るため、制作の機会、発表の場を提供した。今回は「うつす／自然を写す、心をうつす、時を映す」をテーマに装飾性の高いプリントを訴求し、色・プリント技術での意匠表現に挑戦したプリント服地の提案を行った。当協会からは共催名義使用許可、助成金50万円の交付並びに京都染織文化協会理事賞の下付を行った。

来場者数 1,365名

■会員事業

*会員のための啓発事業

◎展覧会招待(年2回)

<招待展覧会>

- ・「ダリ展」(7/1～9/4 京都市美術館)
- ・「生誕300年若冲の京都 KYOTO の若冲」(10/4～12/4 京都市美術館)

◎会員向けセミナーの開催

日 時 12月7日(水) 13:30～15:00

会 場 京染会館6階 大会議室1

テーマ 「京都・室町の発展と役割～染織祭と地域産業を支えた室町問屋～」

講 師 北野裕子 氏(龍谷大学・大阪樟蔭女子大学非常勤講師・当協会染織祭調査担当)

受講料 無 料

受講者 17名

*京都プレス事業

伝統的な染織技術と先端技術を融合させてまったく新しい素材の開発と加工を行い、

市場での反応を調査した後、その技術と情報を会員商社にフィードバックする目的で行っているが、今年度はシルクオパール糸の開発に引き続き取り組んだ。

なお、昨年度開発し、製品化した柞蚕糸使いのウエディングドレス・フォーマルスーツ・ショールは去る 11/16-17 開催の「第 67 回丹後織物求評会」（主催：丹後織物工業組合）において京都府織物・機械金属振興センターのブースにて展示紹介された。

*会員助成事業

歴史ある染織技術を継承し発展することを目的に、会員の企業活動に対する助成金拠出について助成規定に基づき募集を行い、第 2 回理事会において次の通り承認された。

◎㈱岩田「慶匠会への取組み」

内 容 西陣の織元と㈱岩田の共同開発で、伝統柄をベースに現代のデザイン、現代に好まれる色目等を取り入れたオリジナルの帯を制作。産地の保護と存続に寄与する取組みとして、10/3～4 開催の慶匠会展示会への助成を申請。

決定額 20 万円

◎近江屋㈱「三軸組織 海外テストマーケティング事業」

内 容 廃れつつある三軸組織とその技術を次代に継承し発展させるために「SANJIKU」ブランドを展開。今回初となるシンガポールと台湾で行う展示会への助成を申請。

決定額 30 万円（報告後の支払額 24 万円）

◎外与㈱「ロンシャンオールドコレクションデータベース化」

内 容 子会社のロンシャン㈱が所蔵する貴重な染織資料約 5 万点を、後世に残すためにデータベース化し染織技術の継承に寄与するため当事業に対する助成を申請。

決定額 50 万円

*その他（織物復興に関する情報提供）

◎山形県新庄市「新庄亀綾織」の復興と織物の紹介

山形県新庄市に伝わる新庄亀綾織は、亀甲型をベースとした手織りの絹織物で、江戸時代に開発され発展したが、明治期の戊辰戦争時に火災で用具の一切を失ったことから衰退し、技術の継承が途絶えた。その後、新庄亀綾織伝承協会の発足により技術の復興がなされ、このたび織りの復元に成功したことから、当協会会員に資料等を配布し情報提供を行った。